

正字・正假名で味はふ

もんぶしゃうしゃうか

文部省唱歌

歌詞・解説は
振假名附

正字・正假名で味はふ文部省唱歌

目次

内容見本

文部省唱歌とは

正字・正假名文語体とは

四四

文部省唱歌	もんぶしゃうやうか
正字・正假名文語体	せいじかなぶんごたい
一	一
二	二
三	三
四	四
五	五
六	六
七	七
八	八
九	九
十	一〇
十一	一一
十二	一二
十三	一三
雪紅葉の蟲の糸	ゆきくろばらのむしおのいと
蝶々春の小川	テテハスハスのおがわ
富士山	ふじさん
茶摘月夜	ちゃつみづきよ
鯉のぼり	こいのぼり
春の小川	はるのおがわ
をがは	をがは

十四	スキーの歌	うた
十五	冬景色	しき
十六	村の鍛冶屋	むらのかじや
十七	桃太郎	とうろう
十八	浦島太郎	うらしまとうらう
十九	故郷	ふるさと
二十	廣瀬中佐	ひろせちゅうさ
二十一	水師營の會見	すいしやうのくわいん
二十二	螢の光り	ほたるひかり
二十三	千草（菊）	ちくさ（きく）
二十四	庭に仰げば尊し	にはあがめばそんし
二十五	故郷の空宿	ふるさとのそと
二十六	埴生の宿	はにふのそと
二十七	故郷の廃家	ふるさとのはい

日本古謡	にほんこえう
二十八	さくら
二十九	さくら（櫻）
三十	一月一日
三十一	一月一日
三十二	一月一日
三十三	一月一日
三十四	一月一日
三十五	一月一日
三十六	一月一日
三十七	一月一日
三十八	さくら
三十九	さくら
四十	さくら
四十一	さくら
四十二	さくら
四十三	さくら
四十四	さくら
四十五	さくら
四十六	さくら
四十七	さくら
四十八	さくら
四十九	さくら
五十	さくら

参考文献	さんかうぶんけん
資料	しりょう
用言活用表	ようげんわくようへう
百漢字五百音圖	ひゃくかんじごひふおんづ
正字新字一覽表	せいじしんじいちらんべう

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十

故郷

♩-80

The musical score consists of four staves of music in 3/4 time with a key signature of one sharp. The lyrics are written below each staff in both Romanized Japanese and Katakana. The Romanized lyrics are:

ういこ サカコ ザニロ オイザ ヒマシ シスヲ カチハ ノチタ ヤハシ マハテ
 コトイ ブツヅ ナガノ ツナヒ リシニ シヤカ カトカ ノモヘ カガラ ハキン
 ユアヤ 一メマ ハニハ イカア マセヲ モニキ メツフ グケル 一一一 リテサ テモト
 ワおミ スもヅ レヒハ グイキ タブヨ キルキ フフフ ルルル サササ トヒト

五 故郷

一、兎追ひしかの山 小鮒釣りしかの川

二、如何にいます父母 夢は今もめぐりて

三、こうろざしをはたして 忘れがたき故郷

いつの日にか歸らん 思ひいづる故郷

水は清き故郷 山はあをき故郷

『尋常小學唱歌 第六學年用』大正3(1914)年 より「故郷」
 唱歌の教科書の楽譜や算術の教科書などは現代と同じく左横書き。
 縦書きの歌詞は漢字平仮名交じり、楽譜は片仮名・平仮名交互。

春の小川

作詞 さくし

高野辰之

さくきょく
作曲

文語

—

おほろづきよ
朧月夜

作詞 さくし
高野辰之 たかの たつゆき

さくきょく
作曲

文語

一、
春の小川は
さら／＼流る。
えんげの流はなが
岸のすみれや

にほひぬでたく
さけよ咲けよと
色うつくしく
さゝやく如く。

二、
春の小川は
はるかによ
をがは
えづ
はるは
はるは
と

遊べと、
さゝやく如く。
ごと
なが

こゑ
三
聲をそろへて

小川の歌を
轟ごうをそらへて
うたへうたへと、さゝやく如く。

別べつ蝦えびの漢かん字海えじ老びの。

流れる

繰返す。 文字を假名へ上へ。 かへふたもじうへ。

一、菜の花畠に見わたす山の端は
夕風そよふく
里の火影も
二、春風かゝりて
月かりて
里の月も

とみ。 里曲=人里。 さ

現代の小學校の音樂教科書にも掲載されてゐます。平成十六年(二〇〇四)年に「臘月夜の祈り」(元年の歌に中島美嘉と葉加瀬太郎が補作)を中島美嘉が歌つてヒットした事でもこの歌が再注目されました。

大正元年版。

昭和十七年二十二年に口語の歌詞に。

村の鍛冶屋

作詞 不詳

一、暫時も止まずに

一、
暫時も止まずに
飛び散る火の花
ふいごかせはな
鞆の風さへ
しことせいかへ
仕事に精出す
せいかだす
あるじは名高き
なだか

槌打つ響はしる湯玉。いつこく老爺、村の鍛冶屋。息をもつがず、

刀はうたねど
馬鍬に作鍬
平和のうち物
毎日に戦ふ

かせぐにおひつく
めいぶつかぢや
名物鍛冶屋は

あたりに類なき
づちひきに

休まずうちて、
大鎌小鎌
鋤よ鉈よ、
かねたなた

はれかね
彼がこゝろ。
おほがまこがま
かねたなた

はれかね
はこれる脇は
勝りて堅きは
かたな
より堅しと
かたな

かれが||かれの
かれだ||かれの
かれの||かれの

一
刻
二
頑
固

「平和」といふ言葉の出てくる歌は戦前・戦時に多くありました。しかしこの歌が異なることで、しかも学校教育で児童達に教へられました。

名高い刀鍛冶ではない、地域の農民達を陰で支へる無名の野鍛冶の様子を歌つたりズミカルな名曲です。

しかし戦時下の昭和十七（一九四二）年に発行された『初等科音樂二』では、歌詞が口語體化され、さすがに戦時下では歌ひづらかつたのか、三番以降の歌詞も削除されました。ところが、戦争が終り三番の歌詞のやうな時代が復活しても、三番以降の歌詞は残念ながら學校教科書に復活しなかつたと聞きます。

「進曲」「露營の歌」などがあります。しかしこの歌が異色なのは、刀と比較した「平和の打ち物」が題材であることで、しかも学校教育で児童達に教へられました。

「一刻」、「頑固」。



文語

十九

故郷

作詞

高野辰之

作曲

岡野貞一

文語

五、元居た家も村もなく、路に行きあふ人々は、顔も知らない者ばかり。

心細さに蓋とれば、中からぱつと白煙、たちまち太郎はお爺さん。

「乙姫」の歴史的假名遣は「おとひめ」です。「甲乙丙……」の「乙」も「おつ」です。「をとめ」は「乙女」と書く事があるので釣られがちですが、實は「乙女」は宛字です。



この歌は歌詞を歴史的假名遣で、または漢字で書くことでの意味が一つに決まります。漢字や歴史的假名遣が大切であることの説明にも使はれることがあります。

一、兎追ひしかの山、

× おいしく
○ 追ひし

× 鹿の山
○ しの山

○ し彼の山
○ しの山

「し」は助動詞「き」の連體形で過去を表す。

夢は今もめぐりて、忘れがたき故郷。
如何にいます父母、恙なしや友がき、
雨に風につけても、思ひいづる故郷。

三、こゝろざしをはたして、

いつの日にか歸らん、
山はあをき故郷。
水は清き故郷。

× ぬ（居）ます
○ いま（坐）す
(= いらっしゃる)

す。

二十

廣瀬中佐

作詞 不詳

文語

作曲 不詳

一、
轟く砲音
荒波洗ふ
闇を貫く
杉野は何處、
船内限なく
飛来る彈丸に
デツキの上に、
中佐の叫び。
二、
呼べど答へず、
船は次第に
尋ねる三度、
杉野は居らずや。
三、
敵彈いよ／＼
今はとボートに
飛来る彈丸に
旅順港外
軍神廣瀬と
其の名残れど。
船は次第に
呼べど答へず、
波間に沈み、
さがせど見えず。
恨ぞ深き、
うち失せて、
あたりに繁し。
うつれる中佐、
忽ち失せて、
波間に沈み、
さがせど見えず。
恨ぞ深き、
うち失せて、
あたりに繁し。
うつれる中佐、
忽ち失せて、
波間に沈み、
さがせど見えず。

實は文語文
にカタカナ
語を含めて
も構はない。

○見み
×見へず
「見ゆ」。

日本露戰爭の數々の作戦の
うち軍事的には失敗したも
のですが、國は隠さず學校の
で子供達に教へました。沈
み始めた船から部下の杉野
孫七を何度も探し回つて最
後に戰した廣瀬武夫中佐の
物語は當時の日本人の心
を打ち、東京の萬世橋驛前
に銅像も建ちました。最近、
銅像の立つてゐた場所を示
すポールが立てられました。



二十五 埴生の宿

作詞 里見義 作曲 ヘンリー・ローリー・ビンショウツブ

一、埴生の宿も、わが宿、
玉のよそひ、うらやまじ。
のどかなりや、春のそら、
花はあるじ、鳥は友。

二、埴生の宿も、わが宿、
玉のよそひ、うらやまじ。
のどかなりや、春のそら、
花はあるじ、鳥は友。

オーわがやどよ、
たのもしや。

たのもしや。

文語

一十六 故郷の空

作詞 大和田建樹 曲 スコットランド民謡

一、夕空はれてあきかぜふき
つきかげ落ちて鈴虫なく。
おもへば遠し故郷のそら。
あゝわが父母いかにおはす。

歴史的假名遣は「は」
に「ふ」で區切れる。
發音は「ハニュー」。

二、すみゆく水に秋萩たれ
玉なす露はすゝきにみつ。
おもへば似たり故郷の野邊。
あゝわが兄弟たれと遊ぶ。

装ひ=装ひ。

満つ_露
満ちる

月影=月の光

意味する

虫=底本通り(昔からある略字)

が正式には「蟲」。

おはす=じらつし

やる。

たのし、たのもし
古語に「裕福」の意
味もあり。

たのし、たのもし
古語に「裕福」の意
味もあり。

瑠璃=寶石の一種。

原曲は“Comin' Thro' the Rye”で、「誰かさんと誰かさんが麥畑……」といふもう一つの歌詞の方が元の内容に近いのですが、大和田建樹は故郷を思ふ別物の歌詞を載せた高尚な歌を作り替へてしまひました。

文語